

# 平成23年度第5回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要

日 時：平成23年12月1日（木）

午後6時～午後8時20分

場 所：市役所2階行政会議室

出席者：審査委員 檜楨委員長、阿部副委員長、齋藤（秀）委員、小山委員、前田委員、  
吉本委員、東谷委員、長内委員、小林委員、田中委員

※5名欠席

市民生活課 佐々木課長、北岡参事、堀川総括主査、葛西主事

平成24年度の募集について

①募集回数・時期について

②今後のスケジュールについて

③事業成果発表会について

## 【事務局説明】

- ・今年度は6月より募集を開始し、8月からの事業を対象としたが、来年度は募集時期を早め、4月から通年で活用できるようにする。
- ・来年度は、年3回（2月、7月、10月）の募集で実施したい。
- ・来年度に向けての制度内容等の検討は、2月に募集を開始するため、周知期間を考慮すると、12月20日頃には方向性を決定したい。
- ・また、2月の募集に合わせ、今年度活用いただいた事業の成果発表会を実施し、制度のPRも図りたい。成果発表会は、12月までに完了した事業を対象に行い、1月28日（土）に実施したい。
- ・成果発表会の進め方について、全団体に発表していただく方法と、いくつか事業を選んで実施する方法があると思うが、どういうやり方がいいのか意見をいただきたい。

## 【主な意見】

- ・募集時期については、今年度より募集が早まりいいのではないかと。
- ・成果発表会については、今回は制度のPRという意味から、全団体に発表していただく形でいいのではないかと。
- ・成果発表会の中で、次回実施するときにはこうしたほうが良いなど、少し提言のようなことができる時間があつたほうが良いのではないかと。

④制度内容の見直しについて

⑤審査方法について

## 【主な意見】

（制度全般について）

- ・申請事業の中に、町会の活動とNPOや任意団体の活動という2つの軸があつたように感じている。意見交換会の中で、1%の財源を340の町会に配分した方が良いという意見もあつたが、

そうなると思えば逆にその軸が深く対立してしまうのではないか。

- ・1%システムについて、自分たちのまちをこうしたいという人たちのエネルギーをうまく事業にできるものだと思っていた。一緒に卓を囲み、一緒に考えていくことができれば、本当のまちづくりができる。
- ・町会からは事務費交付金が少ないということをよく聞くが、その割には町会からの申請が少ないように感じた。
- ・継続性のある事業を対象とするのであれば、複数年度の事業展開が分かるような工夫が必要である。
- ・町会という仕組みがあり、これは弘前の大変な財産である。町会の個性能力を上げていくことと、1%の役目を明確にすることをうまくつなげていけるようなことができたらいと感じている。
- ・今年度実施した事業の実績については、詳しく教えてほしい。我々の判断が正しかったのか、細かい実績をいただいて確認したい。
- ・書類の作成のうまさ、ヒアリングのうまさ審査に影響されたという感じはする。

(対象事業について)

- ・「1団体1事業まで」としてもよいのではないか。

(対象経費について)

- ・講師謝礼などは、各団体単価が様々である。統一したほうが良いのではないか。
- ・講師謝礼の単価などは、制度の中で定める方法もあるが、団体の中でそれぞれ定めてもらい、それを提示していただくという方法もあるのではないか。
- ・講師謝礼・交通費などもある程度上限を設定することも必要であるが、上限金額があるために、謝礼や交通費の申請金額を吊り上げて考えてくるといった危険性もある。
- ・対象経費については、いろいろ考えの違いがあるが、社会通念上許される金額のものであれば、多少口に入れるものであっても認めてもよいのではないか。もっと柔軟に考えてもいいのではないか。
- ・事業の継続性を求めるのであれば、人件費に対して日当などを出していかないと継続していかない。人件費も対象とすべきではないか。

(審査について)

- ・申請者に対して、もっと納得してもらうような審査の方法が必要である。
- ・委員の起立により事業の採択を決定しているが、点数で評価した方良いのではないか。点数の結果により、この部分が良い・悪いということが申請者にも伝わるのではないか。
- ・公開で審査をしているので、他団体の発表を聞いたり、他団体のやり方を聞いて学んでいくことが大事である。
- ・申請する側は、一生懸命考え自分たちはこれが最高だという思いで応募しているので、ある程度マニュアル化した審査基準で一貫性をもって審査すべきである。
- ・審査する場所について、各地域に出向いていくことも必要ではないか。
- ・審査基準に、例えば「町会の再生」など弘前はこれが大事だということ項目（応援する軸）をいくつか挙げて審査することが必要である。

- ・継続事業が申請された場合は、書類審査だけでいいのではないか。
- ・運用指針を作成すべきではないか。(町会系、ボランティア団体系、イベント系)
- ・朝9時から夕方5時までの審査はきついものがある。審査委員会を例えば2つに分けて審査をし、その結果を委員長のもとで最終的に判断するという方法もあるのではないか。
- ・審査基準を細かく設けることは反対である。細かく設定するのであれば、審査委員会を開かず事務局で判断出来るのではないか。

#### 【今後の予定】

- ・今日の議論を基に、少人数で検討するチームを設置し、制度内容や審査方法等を検討する。
- ・検討チームは、檜楨委員長、阿部副委員長、齋藤(秀)委員、長内委員、田中委員の5人に決定。
- ・検討結果は、次回審査委員会(12月下旬予定)に報告し、審議することにする。